

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第一学年普通科 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
実社会に必要な国語の知識や技能を身に着ける。		論理的に考える力や共感する力、創造する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。	
学習内容の概要	教科書掲載の文章を読解し理解を深める。また、常用漢字や語彙の知識を深め、文章を書く力を身に着ける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂『精選 現代の国語』、 尚文出版『常用漢字クリア』、その他自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	1, 知らないものに 出会う	ぐうぜん、うたがう、読書のすすめ	4	筆者の読書に対する考え方をまとめ、読書の意義と効用について理解を深める。	
		“この一冊”を伝え合おう	2		
5	2, 相手のことを考 える	水の東西	4	異なった文化や言語の比較を通して、異なった価値観や認識があることを理解する。	
		言語は色眼鏡である	4		
6	3, 情報社会を生きる	ネットが崩す公私の境	4	情報メディアと自己との関係のあり方について考える。	
		「選べる社会」の難しさ	4		
7	4, 言葉を見つめる	辞書は生きている	4	身近な言葉の意味について関心を持ち、辞書を引くことを通して言葉への理解を深める。	
アガルとノボル		4			
8		オリジナル辞書をつくろう	3		
9	5, ワールド・カフェ	大切な会話－ワールド・カフェへの招待	4	問題解決に必要な知恵と創造性を引き出す “会話の力”を認識する。	
		ワールドカフェをやってみよう	4		
10	6, 思考の枠組みを広げる	「見える文化」/「見えない文化」	4	日頃見ている視点とは別の視点の重要性について理解する。	
		コインは円形か	4		
11	7, 科学技術と人間	人がアンドロイドとしてよみがえる未来	4	現代社会の課題にかかわる文章を読み、それらについて自分の考えを持ち、文章にまとめて発表する。	
人間にできて機会にできないこと		4			
12		調べたことをレポートにまとめよう	4		
1	8, マイクロディ ベート	自然をめぐる合意の設計	4	多面的思考という観点から文章の内容を理解し、マイクロディベートを行うことで、論理の力について学ぶ。	
マイクロディベートとは		1			
2		マイクロディベートをやってみよう	3		
2	10, 多文化共生社 会と「私」	「国際貢献」ではなく「国際協力」である	4	グローバル化する社会とどう向き合うか考える。	
3		グローバリゼーションの光と影	5		

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第一学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
実社会に必要な国語の知識や技能を身に着ける。		論理的に考える力や共感する力、創造する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。	
学習内容の概要	教科書掲載の文章を読解し理解を深める。また、常用漢字や語彙の知識を深め、文章を書く力を身に着ける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	第一学習社『新編 現代の国語』、 尚文出版『常用漢字クリア』、その他自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	新しい出会い	「未知」はいくらでもある	5	実体験を踏まえて提示された「未知」に対する筆者のとらえ方を理解し、自分に照らして考えを深める。	
5	言葉が開く世界	言語としてのピクトグラム	4	ピクトグラムやオノマトペなど言語表現の多様性と重要性について理解を深める。	
		言語の海のオノマトペ	4		
6	人間の風景	十六歳のとき	4	人生の岐路となった筆者の経験を追体験することにより、自身の人生や生き方について考え、自分自身を見つめなおす契機とする。	
		臆病な詩人、街へ出る	4		
7	話して伝える	話し方の工夫	3	場面に応じた言葉遣いを学び、実生活に役立つ言語表現について理解を深める。	
待遇表現		3			
8		論理的な表現	3		
9	社会と人間	「弱いロボット」の誕生	4	人間社会における関係性のあり方について考え、理解を深める。	
		人はなぜ仕事をするのか	5		
10	現代と社会	イースター島になぜ森がないのか	4	科学技術の発展の功罪と未来の社会の行方について考える。	
		「材料科学」のゆくえ	4		
11	話して伝える	情報の探索と選択	3	場面に応じた言葉遣いを学び、実生活に役立つ言語表現について理解を深める。	
		スピーチで自分を伝える	3		
12	論理分析	「間」の間隔	4	「対比」の表現について理解を深める。	
1		日本語は世界をこのように捉える	4	具体と抽象の考え方について理解を深める。	
	2	生活の中の表現	図書委員会のポスターの掲示内容を検討する	5	与えられた資料と会話を関連付けながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。
書き方の基礎レッスン			4	基本的な文章の書き方を学びつつ、実生活に役立つ実用的な文章を書くことを通じて、書く力の養成を目指す。	
3	書いて伝える	実用的な手紙の書き方	4		
		社会に対する意見文を書く	4		

教科名	国語	科目名	現代の国語	単位数	2
対象学年 学科・コース	第一学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
実社会に必要な国語の知識や技能を身に着ける。		論理的に考える力や共感する力、創造する力を伸ばし、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会にかかわろうとする態度を養う。	
学習内容の概要	教科書掲載の文章を読解し理解を深める。また、常用漢字や語彙の知識を深め、文章を書く力を身に着ける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	第一学習社『新編 現代の国語』、 尚文出版『常用漢字クリア』、その他自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	新しい出会い	「未知」はいくらでもある	4	実体験を踏まえて提示された「未知」に対する筆者のとらえ方を理解し、自分に照らして考えを深める。	
5	言葉が開く世界	言語としてのピクトグラム	4	ピクトグラムやオノマトペなど言語表現の多様性と重要性について理解を深める。	
		言語の海のオノマトペ	4		
6	人間の風景	十六歳のとき	5	人生の岐路となった筆者の経験を追体験することにより、自身の人生や生き方について考え、自分自身を見つめなおす契機とする。	
		臆病な詩人、街へ出る	4		
7	話して伝える	話し方の工夫	4	場面に応じた言葉遣いを学び、実生活に役立つ言語表現について理解を深める。	
待遇表現		4			
8		論理的な表現	4		
9	社会と人間	「弱いロボット」の誕生	4	人間社会における関係性のあり方について考え、理解を深める。	
		人はなぜ仕事をするのか	4		
10	現代と社会	イースター島になぜ森がないのか	4	科学技術の発展の功罪と未来の社会の行方について考える。	
		「材料科学」のゆくえ	4		
11	話して伝える	情報の探索と選択	3	場面に応じた言葉遣いを学び、実生活に役立つ言語表現について理解を深める。	
		スピーチで自分を伝える	3		
12	論理分析	「間」の間隔	4	「対比」の表現について理解を深める。	
1		日本語は世界をこのように捉える	4	具体と抽象の考え方について理解を深める。	
2	生活の中の表現	図書委員会のポスターの 掲示内容を検討する	4	与えられた資料と会話文を関連付けながら、課題に即して必要な情報を読み取り、活用する。	
3		書いて伝える	書き方の基礎レッスン	4	基本的な文章の書き方を学びつつ、実生活に役立つ実用的な文章を書くことを通じて、書く力の養成を目指す。
	実用的な手紙の書き方		4		
	社会に対する意見文を書く		4		

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	3
対象学年 学科・コース	第一学年普通科 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
学習内容の概要	教科書掲載の文章を読解しながら、基本的な読解の力を身に着ける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	三省堂『精選 言語文化』、尚文出版『やさしく詳しい古典文法 三訂版』、その他自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	言の葉の森に分け入る	日本語の響き	3	日本語の言葉の響きやリズムの特徴にを理解するとともに、日本の言語文化の特徴について理解を深める。	
		日本語の標記法	3		
5	1，古文入門	古文の世界へ	3	歴史的仮名遣い、用言の扱いについて理解する。また、登場人物の言動や心情を読み取る。	
		児のそら寝	4		
		絵仏師良秀	5		
6	1，漢文入門	漢文の世界へ	3	訓読の決まりなど基本的な事項を学ぶとともに、故事成語の現代とのつながりについて理解を深める。	
		漢文の基本構造と訓読	4		
7	2，故事成語	漁父之利	5		
		借虎威	5		
8	1，小説一	羅生門	6	作品の構成、場面や状況における登場人物の心情を理解する。また、典拠となった説話と読み比べ、小説の読みを深める。	
9					
10	2，随筆	春はあけぼの	4	助動詞の学習を行いながら、古文の読解に必要な知識の定着を目指しつつ、筆者や登場人物の考え方を読み取る。	
		ある人弓射ることを習ふに	4		
		丹波に出雲といふ所あ	5		
11	3，物語	竹取物語	5	「物語」の設定を理解し、登場人物のおかれた状況や心情を読み取る。	
		伊勢物語	5		
	3，史話	先従隗始	6	「史話」に登場する人物の生き方について考え	
12	4，漢詩	春暁	4	漢詩の形式について学びつつ、詩に込められた作者の思いについて考える。	
		春望	4		
		静夜思	4		
	2，詩	小諸なる古城のほとり	4	「詩」について学び、近代史の展開を把握す	
1	4，和歌	万葉集	4	「和歌」に描かれた情景や心情を読み取る。	
	6，日記・紀行	土佐日記	6	それぞれの場面に描かれた作者の心情を理解す	
2	5，文章	雑説	7	筆者の主張について、現代の視点から考える。	
	6，思想	論語	6	『論語』の思想や知恵について考える。	
3	5，小説三	待ち伏せ	5	作品世界が現代に問うているものについて考える。	
	日本語の内と外	月の誤訳	5	異文化との出会いや、交流を通して培われた考えや首長を理解する。	

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	2
対象学年 学科・コース	第一学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
学習内容の概要	教科書掲載の文章を読解しながら、基本的な読解の力を身に着ける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	第一学習社『新編 言語文化』、尚文出版『やさしく詳しい古典文法 三訂版』、その他自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	古文入門	古文の学習	2	我が国の言語文化について理解を深めるために、古典の世界に親しむための意義を知る。また、古文特有の言葉遣いになれる。	
		鳩と蟻のこと	3		
		古文を読むために①②	2		
5	古文に親しむ	児のそら寝	3	現代に通じる人間のありようを味わいながら古文の世界への親しみを深める。また、用言の活用について理解する。	
		なよ竹のかぐや姫	4		
		古文を読むために③	2		
6	漢文入門	漢文入門	2	我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。また、漢文を読解するための基礎知識として訓読の方法を理解する。	
		訓読に親しむ	3		
		漢文を読むために①②③	3		
7	故事成語	五十歩百歩	5	小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえる。	
8	小説を読む（一）	島の少年－船	4		
9	物語を楽しむ	伊勢物語	4	和歌を含む物語の読み取りを通して、古文への興味・関心を広げる。また、助動詞について文語の決まりを理解する。	
		古文を読むために④	3		
10	随筆を読む	徒然草	3	作者の関心ごとや当時の世相などについて書かれた文章を読み、そこに現われた味方・考え方の一端に触れる。	
		方丈記	4		
		枕草子	3		
11	故事成語	矛盾	4	漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解する。	
		狐借虎威	4		
12	詩の楽しみ	道程	3	近代・現代の詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に込められた世界への思いを読み取る。	
		小景異情	3		
		I was born	3		
1	和歌と俳諧	万葉・古今・新古今	4	調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞の詩型を検討する。	
2	漢詩の鑑賞	唐詩の世界	4	表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	
		日本の漢詩	3		
3	小説を読む（二）	羅生門	5	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ内容の解釈を深める。	

教科名	国語	科目名	言語文化	単位数	2
対象学年 学科・コース	第一学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
学習内容の概要	教科書掲載の文章を読解しながら、基本的な読解の力を身に着ける。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	第一学習社『新編 言語文化』、尚文出版『やさしく詳しい古典文法 三訂版』、その他自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	古文入門	古文の学習	2	我が国の言語文化について理解を深めるために、古典の世界に親しむための意義を知る。また、古文特有の言葉遣いになれる。	
		鳩と蟻のこと	3		
		古文を読むために①②	2		
5	古文に親しむ	児のそら寝	3	現代に通じる人間のありようを味わいながら古文の世界への親しみを深める。また、用言の活用について理解する。	
		なよ竹のかぐや姫	4		
		古文を読むために③	2		
6	漢文入門	漢文入門	2	我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。また、漢文を読解するための基礎知識として訓読の方法を理解する。	
		訓読に親しむ	3		
		漢文を読むために①②③	3		
7	故事成語	五十歩百歩	5	小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確にとらえる。	
8	小説を読む（一）	島の少年－船	4		
			4		
9	物語を楽しむ	伊勢物語	4	和歌を含む物語の読み取りを通して、古文への興味・関心を広げる。また、助動詞について文語の決まりを理解する。	
		古文を読むために④	3		
10	随筆を読む	徒然草	3	作者の関心ごとや当時の世相などについて書かれた文章を読み、そこに現われた味方・考え方の一端に触れる。	
		方丈記	4		
		枕草子	3		
11	故事成語	矛盾	4	漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを理解する。	
		狐借虎威	4		
12	詩の楽しみ	道程	3	近代・現代の詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に込められた世界への思いを読み取る。	
		小景異情	3		
		I was born	3		
1	和歌と俳諧	万葉・古今・新古今	4	調べや修辞技法に留意しながら、和歌の鑑賞の詩型を検討する。	
2	漢詩の鑑賞	唐詩の世界	4	表現や技法に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。	
		日本の漢詩	3		
3	小説を読む（二）	羅生門	5	作品に表れているものの見方、感じ方、考え方をとらえ内容の解釈を深める。	

教科名	地理歴史科	科目名	歴史総合	単位数	2単位
対象学年	普通科特別進学αβ 第1学年	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
日本史と世界史を関連づけ、世界史のなかで日本史をとらえていく。近・現代日本史を、世界の帝国主義・主権国家体制をふまえ、その特色を明らかにする。		世界史における日本史という観点から、政治・経済・文化・宗教・思想の特色を比較検討し、各地域、日本の特色を考え、明らかにしていく。		「すべての歴史は現代史である」(クローチェ)とあるように、現代の私たちが直面する課題を明らかにすべく、歴史的追究を行い、学習意欲を高めていく。	
学習内容の概要	帝国主義・主権国家形成期の世界史的概観を行い、近・現代日本史の課題・特色を明らかにする。				
評価の観点・評価方法	小テスト、ノート点検、論述小テスト、定期考査を行い、客観的・個別的根拠に基づき、総合的に評価する。				
使用教材	「歴史総合」(山川出版社教科書)・ワークノート(山川出版社)・授業者作成問題集				
年 間 授 業 計 画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第1章 結びつく世界	①アジア諸地域の帝国概観	2時間× 3週＝6	オスマン帝国、サファヴィー朝、ムガル帝国、明・清の各帝国の盛衰の中で、日本の室町・戦国・江戸幕藩体制を関連付けて理解する。	
	1 アジア諸地域の繁栄と日本	②室町・戦国・江戸幕藩体制について			
5	2 ヨーロッパにおける主権国家の形成と海外進出	①各国の中央集権化と主権国家体制の確立	2時間× 4週＝8	イギリス、フランス、スペイン、オランダの順に中央集権化と主権国家体制の確立を概観し、「世界の一体化」についても理解する。	
		②宗教改革、科学革命、海外進出			
6	第2章 近代ヨーロッパ アメリカ世界の成立	①イギリス産業革命	2時間× 4週＝8	イギリスの産業革命とその影響、欧米の市民革命について理解する。	
	1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命	②アメリカ独立革命			
	2 欧米の市民革命	③フランス革命			
7	3 19世紀前半のヨーロッパ	①ウィーン体制下の思想	2時間× 3週＝6	市民革命後のヨーロッパ世界について、ウィーン体制・ナショナリズムの点から考える。国民国家の形成についても考える。	
	4 19世紀後半のヨーロッパ	②各国の国民国家形成			
8	7 中国の開港と日本の開国	①アヘン戦争後の中国	2時間× 2週＝4	アヘン戦争後の清国混乱と太平天国の乱、ペリー来航後の日本の開国について関連付けながら明らかにする。	
		②ペリーの来航と日本の開国			
9	第3章 明治維新と日本の立憲体制	①明治維新	2時間× 4週＝8	幕藩体制維持に対し、薩長討幕派はどのような国家構想を実現しようとしたのか、また、対外関係をどのように整え、自由民権運動との対抗の中で確立された明治政府の立憲主義の内実を明らかにする。	
		②対外関係			
		③自由民権運動と立憲主義			
10	第4章 帝国主義の展開とアジア	①条約改正と日清戦争	2時間× 4週＝8	不平等条約改正のための交渉の経過をふまえ、日清戦争における官民協力体制、非戦論のない戦争はなぜか明らかにする。	
		②日本の産業革命			
		③帝国主義と列強の展開			
11		④世界分割と列強の対立	2時間× 4週＝8	日清戦争後、欧米列強による中国分割をふまえ、遼東半島、満州を支配下に組み込もうとする日本とロシアの対決を、その背景も含め明らかにする。	
		⑤日露戦争とその影響			
12	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	①第一次世界大戦	2時間× 3週＝6	「大正新時代の天祐」(井上 馨)と日本側が受け取った第一次世界大戦を、世界史の中の日本という位置付けで理解する。また、戦後の協調主義・社会運動もふまえる。	
		②国際平和と安全保障			
		③社会・労働運動			
1	第6章 経済危機と第二次世界大戦	①世界恐慌	2時間× 3週＝6	世界恐慌に対して、ドイツ、イタリア、日本の軍国主義国家の台頭をおさえる。領土拡張要求の中で第二次世界大戦を迎える世界、太平洋戦争に突入する日本、両者を関連付けて考えていく。	
		②ファシズムの台頭			
		③満州事変			
2		④日中戦争	2時間× 4週＝8	第二次世界大戦および太平洋戦争の経過を丁寧に おさえ、戦争の惨禍も見逃さずことなく、明らかにする。	
		⑤第二次世界大戦と太平洋戦争			
	第7章 戦後史				
3	第8章～第10章 戦後史・現代の課題	①冷戦と世界経済	2時間× 3週＝6	東西冷戦後、地域紛争が続発する中で、人権問題が明らかとなり、ロシアのウクライナ侵攻問題も避けては通れない現状である。世界と日本の課題について、問題解決的に考えたい。	
		②冷戦の終結と国際情勢			
		③世界と日本の諸課題			

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2 単位
対象学年 学科・コース	1 年 進学	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
学習内容の概要	近代化と私たち 国際秩序の変化や大衆化と私たち グローバル化と私たち				
評価の観点・ 評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目したい。定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。				
使用教材	教科書：「歴史総合 近代から現代へ」 副教材：「歴史総合 近代から現代へ ノート」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	1近代化と私たち	1.アジア諸地域の繁栄と日本 2.ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出	6	・産業革命による社会や暮らしの変化、民衆の反応について考察し、理解する。	
5		1.ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2.アメリカ独立革命とフランス革命 3.19世紀前半のヨーロッパ	8	・この時代の国際的諸運動の進展や文化・科学と社会の変容について、具体的な例をあげながら考察する。	
6		4.19世紀後半のヨーロッパ 5.19世紀のアメリカ大陸 6.西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7.中国の開港と日本の開国 1.明治維新と諸改革	8	・明治新政府がどのようにして天皇中心の新国家を建設したかを考察し、理解する。	
7		2.明治初期の対外関係 3.自由民権運動と立憲体制 1.条約改正と日清戦争 2.日本の産業革命と教育の普及 3.帝国主義と列強の展開 4.世界分割と列強の対立 5.日露戦争とその影響	8	・帝国主義時代における世界分割の特徴や列強間の国際関係の再編を考察し、理解する。	
8	2 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1.第一次世界大戦とロシア革命	2	・第一次世界大戦の開戦から終結までの経過を理解する。	
9		2.国際平和と安全保障 3.アジア・アフリカ地域の民族運動	8	・第一次世界大戦後の世界で人々の権利意識が高まった背景について考察し、理解する。	
10		4.大衆消費社会と市民生活の変容 5.社会・労働運動の進展と大衆の政治参加 1.世界恐慌の発生と各国の対応 2.ファシズムの台頭	8	・世界恐慌がおきた原因とその後の各国の対応について考察し、理解する。	
11		3.日本の恐慌と満洲事変 4.日中戦争と国内外の動き 5.第二次世界大戦と太平洋戦争 1.新たな国際秩序と冷戦の始まり 2.アジア諸地域の独立	8	・国際連盟と国際連合の共通点と相違点について考察し、理解する。	
12	3 グローバル化と私たち	3.占領下の日本と民主化 4.占領政策の転換と日本の独立 1.集団防衛体制と核開発	6	・講和をめぐる国内の動き、サンフランシスコ講和会議の経過や平和条約の内容を理解し、日本がどのように国際社会に復帰したのかを考察する。	
1		2.米ソ両大国と平和共存 3.西ヨーロッパの経済復興 4.第三世界の連携と試練 5.55年体制の成立 6.日本の高度経済成長 7.核戦争の恐怖から軍縮へ	6	・高度経済成長による日本の人々の生活様式や意識の変化を考察する。	
2		8.冷戦構造のゆらぎ 9.世界経済の転換 10.アジア諸地域の経済発展と市場開放 1.冷戦の終結と国際情勢 2.ソ連の崩壊と経済のグローバル化	6	・冷戦後の世界で、経済のグローバル化が進んだことで生じた社会の変化を認識し、グローバル化の前提となった、地域統合や自由貿易圏の成立とWTOの設立について理解する。	
3		4.地域紛争の激化 5.国際社会のなかの日本 1.現代世界の諸課題 2.現代日本の諸課題	4	・現代世界の諸課題と解決に向けての方策について考察し、理解する。	

教科名	地理歴史	科目名	歴史総合	単位数	2 単位
対象学年 学科・コース	1 年 総合選択	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
学習内容の概要	近代化と私たち 国際秩序の変化や大衆化と私たち グローバル化と私たち				
評価の観点・ 評価方法	基礎的知識を身につけるとともに、歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求しようとする姿勢に着目したい。定期考査・主体的な学習への取り組み・出席状況などを総合的に評価する。				
使用教材	教科書：「わたしたちの歴史 日本から世界へ」 副教材：「わたしたちの歴史 日本から世界へ ノート」				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	1近代化と私たち	1 18世紀の世界とアジア 2 産業革命 3 アヘン戦争と日本	6	・産業革命による社会や暮らしの変化、民衆の反応について考察し、理解する。	
5		4 日本の開国 5 日本開国期の国際情勢 6 開国後の日本社会	8	・開港前後における日本の政治状況について理解する。	
6		7 市民革命と国民統合 8 明治維新 9 富国強兵と文明開化 10 日本の明治初期の外交	8	・明治新政府がどのようにして天皇中心の新国家を建設したかを考察し、理解する。	
7		11 大日本帝国憲法の制定 12 日本の産業革命と日清戦争 13 帝国主義 14 日露戦争と韓国併合	8	・帝国主義時代における世界分割の特徴や列強間の国際関係の再編を考察し、理解する。	
8	2 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1 大衆運動の芽ばえ 2 第一次世界大戦 3 第一次世界大戦と日本	2	・第一次世界大戦の開戦から終結までの経過を理解する。	
9		4 ロシア革命とその影響 5 社会運動の広がり 6 国際協調 7 アジアの民族運動	8	・第一次世界大戦後の世界で人々の権利意識が高まった背景について考察し、理解する。	
10		8 大量生産・大量消費社会 9 世界恐慌 10 独裁勢力の台頭 11 日本のアジア侵出	8	・世界恐慌がおきた原因とその後の各国の対応について考察し、理解する。	
11		13 第二次世界大戦と日本 14 第二次世界大戦の終結 15 戦後国際秩序 16 冷戦の始まり 17 日本の戦後改革と日本国憲法 18 日本の独立	8	・国際連盟と国際連合の共通点と相違点について考察し、理解する。	
12	3 グローバル化と私たち	1 第三世界の登場 2 冷戦の固定化と「雪どけ」 3 冷戦の展開	6	・アジア・アフリカ諸国が第三世界として連帯した背景について考察し、理解する。	
1		4 55年体制と安保闘争 5 高度経済成長の光と影 6 ベトナム戦争とアメリカ 7 経済構造の変化 8 日本の経済大国化	6	・高度経済成長による日本人々の生活様式や意識の変化を考察する。	
2		9 アジアの経済成長 10 社会主義の停滞と新自由主義 11 冷戦の終結 12 冷戦後の地域紛争 13 地域統合	6	・安定成長からバブル景気に至る過程とバブル景気崩壊後の経済の低迷について理解する。	
3		14 現代世界の諸課題 15 日本の諸課題	4	・現代世界の諸課題と解決に向けての方策について考察し、理解する。	

教科名	公民科	科目名	公共	単位数	2
対象学年 学科・コース	第1学年 普通科特別進学 コースαβ	履修形態	必須科目	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・公共的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる、近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。		・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心をもち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	
学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し、その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており、「自分たちの社会」に対する関心を深める。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、授業態度（10点）				
使用教材	数研出版 公共・公共整理ノート				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第3章 公共的な空間における 基本原理 第1節 民主社会の基本原理	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制	6	（思考・判断・表現） ・民主政治の原理について、具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し、論理的に思考できるようになる。	
5	第2節 日本社会の基本原理	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4.新しい人権・人権の国際的広がり	6	（主体的に学習に取り組む態度） ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。	
6	第4章 現代の民主政治と政治参加の 意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割	4	（知識・技能） ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。	
		2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義	4		
7	第5章 現代の経済社会と経済活動の あり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	1.選挙と選挙制度	3 3	（主体的に学習に取り組む態度） ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。	
		2.経済生活のしくみ 2.企業の働きと役割 3.市場経済のしくみ 1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策			
8	第3節 日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	4	（知識・技能） ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。	
9	第4節 豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利	6	（思考・判断・表現） ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。	
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4 4	（思考・判断・表現） ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。	
		1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容 1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福	4 4		
11	第2章 公共的な空間における人間 としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	（知識・技能） ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	（思考・判断・表現） ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。	
2	第2節 国際政治の課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	8	（主体的に学習に取り組む態度） ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。	
3	第3節 国際経済の動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3.経済のグローバル化と現代の国際経済	6	（知識・技能） ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。	

教科名	公民科	科目名	公共	単位数	2
対象学年 学科・コース	第1学年 普通科進学	履修形態	必須科目	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・公共的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる、近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。		・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心を持ち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	
学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し、その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており、「自分たちの社会」に対する関心を深める。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、授業態度（10点）				
使用教材	数研出版 公共・公共整理ノート				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第3章 公共的な空間における 基本原理 第1節 民主社会の基本原則	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制	6	（思考・判断・表現） ・民主政治の原理について、具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し、論理的に思考できるようになる。	
5	第2節 日本社会の基本原則	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4.新しい人権・人権の国際的広がり	6	（主体的に学習に取り組む態度） ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。	
6	第4章 現代の民主政治と政治参加の 意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割	4	（知識・技能） ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。	
		2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義	4		
7	第5章 現代の経済社会と経済活動の あり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	1.経済生活のしくみ 2.企業の働きと役割 3.市場経済のしくみ	3	（主体的に学習に取り組む態度） ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。	
		1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策	3		
8	第3節 日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	4	（知識・技能） ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。	
9	第4節 豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利	6	（思考・判断・表現） ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。	
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚	1.青年期の意義と課題	4	（思考・判断・表現） ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。	
		2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4		
11	第3節 日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における人間 としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容	4	（思考・判断・表現） ・得られた知識をもとに論点を整理し、その解決に向けた思考・判断ができるようになる。	
		1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福	4		
12	第2節 現代の諸課題と倫理	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	（知識・技能） ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	（思考・判断・表現） ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。	
2	第2節 国際政治の課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	8	（主体的に学習に取り組む態度） ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。	
3	第3節 国際経済の動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3.経済のグローバル化と現代の国際経済	6	（知識・技能） ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。	

教科名	公民科	科目名	公共	単位数	2
対象学年 学科・コース	第1学年 普通科総合選択	履修形態	必須科目	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
・公共的な空間において社会に参画し、他者と協働するための前提となる、近代の民主政治の制度と基本原理に関する基本的な知識を獲得する。		・公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。		・近代・現代の社会とそこにおける人間のあり方について関心を持ち、自身にひきつけて思考しようとする。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	
学習内容の概要	様々な理念を自身のことばで表現し、その特徴や課題を考えることができるように配慮する。また、「公共的な空間」としての社会にすでに参加しており、「自分たちの社会」に対する関心を深める。				
評価の観点・ 評価方法	1) 知識・技能…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 2) 思考・判断・表現…定期テストの得点率（80％）、小テストの得点率（20％） 3) 主体的に学習に取り組む態度…課題に取り組む態度（10点）、授業態度（10点）				
使用教材	数研出版 公共・スタディノート公共				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	第3章 公共的な空間における 基本原理 第1節 民主社会の基本原則	1.民主政治の始まりと基本的人権の保障 2.権力分立と法の支配世界の主な政治体制	6	（思考・判断・表現） ・民主政治の原理について、具体的な事象と抽象的な理論の間を行き来し、論理的に思考できるようになる。	
5	第2節 日本社会の基本原則	1.日本国憲法と基本原理 2.平等権・自由権 3.社会権・参政権・請求権 4.新しい人権・人権の国際的広がり	6	（主体的に学習に取り組む態度） ・自身が社会形成者・主権者となる見地から民主政治や人権保障に関心を深める。	
6	第4章 現代の民主政治と政治参加の 意義 第1節 日本の政治機構 第2節 政治参加と民主政治の課題	1.国会のしくみと役割	4	（知識・技能） ・法や規範の意義及び役割、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。	
		2.内閣のしくみと行政機構 3.日本の裁判制度と人権保障 4.司法参加の意義	4		
7	第5章 現代の経済社会と経済活動の あり方 第1節 経済のしくみと市場機構 第2節 財政と金融	1.選挙と選挙制度	3 3	（主体的に学習に取り組む態度） ・消費税や所得税などの税金の使途に関心が持てている。 ・超低金利が続く日本社会の現状について主体的に追究できている。	
		2.経済生活のしくみ 2.企業の働きと役割 3.市場経済のしくみ 1.国民所得と経済成長 2.財政の役割 3.金融の役割 4.日本銀行と金融政策			
8	第3節 日本経済の発展と変化	1.日本経済のあゆみ 2.産業構造の変化と職業 3.中小企業と農業	4	（知識・技能） ・産業構造の変化と職業選択との関係や、中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。	
9	第4節 豊かな生活と福祉の実現	1.経済社会とルール 2.消費者問題 3.公害対策と環境保全 4.労働者の権利	6	（思考・判断・表現） ・雇用・労働問題や社会保障・福祉について課題を発見し、解決の方法を考察できている。	
10	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成 第2節 人間としての自覚	1.青年期の意義と課題 2.自我の確立と自己形成 1.生きることと考えること 2.世界の宗教	4 4	（思考・判断・表現） ・自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解している。	
		1.日本の思想（仏教・儒学・国学） 2.日本の文化と西洋思想の受容 1.近代科学の考え方 2.人間の尊厳と幸福	4 4		
11	第3節 日本人としての自覚 第2章 公共的な空間における人間 としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想	1.地球環境をめぐる問題 2.資源・エネルギーをめぐる問題 3.生命をめぐる問題 4.情報をめぐる問題	6	（知識・技能） ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	
1	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向	1.国際社会と国際法 2.国際連合の成立と組織 3.国際連合の役割と課題 4.戦後の国際情勢	6	（思考・判断・表現） ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。	
2	第2節 国際政治の課題と日本の役割	1.日本の安全保障と日米安保体制 2.軍縮への動き 3.現代の紛争 4.世界の人権問題と日本	8	（主体的に学習に取り組む態度） ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持てている。	
3	第3節 国際経済の動向と国際協力	1.国際経済のしくみ 2.戦後の国際経済・国際貿易体制 3.経済のグローバル化と現代の国際経済	6	（知識・技能） ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・戦後国際経済の流れが理解できている。	

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第1学年普通科 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付ける。		数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力が養う。		考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善をする。	
学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「数学Ⅰ」、傍用問題集「マスグレード数学ⅠA」、Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	多項式 実数	多項式とその加法、減法、多項式の乗法、因数分解、実数、根号を含む式の計算 実数、根号を含む式の計算、	9	式の展開と因数分解について、目的に応じて式を変形したり、見直しをもって式を扱うことができるようにする。数の体系についての理解を深め、絶対値や根号を含む式の計算ができるようにする。	
5	1次不等式	1次不等式、絶対値を含む方程式・不等式	9	不等式の基本性質と1次不等式の解法について学び、不等式の解の意味について理解する。連立不等式や文章問題、絶対値が付いた不等式についても扱う。	
6	関数とグラフ	関数 2次関数のグラフ 2次関数の決定	13	いろいろな関数を取り上げ、関数概念の理解を深める。	
7	2次関数の最大・最小 2次関数と方程式・不等式	2次関数の最大・最小 応用 2次方程式 2次関数とx軸の共有点	10	2次関数の値の変化を考察することを通して、関数の最大値・最小値を求めることができるようにする。 2次方程式の解の公式を導き、実数解を持つ2次方程式を解けるようにする。さらに、判別式や様々な2次方程式の取り扱いについて学び、計算ができるようにする。2次関数のグラフとx軸との共有点を考え、2次関数と2次方程式の関係について理解する。また、グラフとx軸との位置関係から、1次関数のグラフと1次不等式、2次関数のグラフと2次不等式の関係について理解する。	
8		2次不等式 応用			
9	集合 命題と証明	集合 命題と集合 逆・裏・対偶	12	集合に関する基本的な事項を学び、命題、必要条件、十分条件および逆・裏・対偶などは、定義をしっかりと理解させ、できるだけ集合で使うベン図や図表を用いて考える習慣をつけさせ、論理的な思考力を伸ばす。	
10	鋭角の三角比	正弦・余弦・正接 相互関係	10	正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比と角の大きさとの間の関係として導入し、その意味を理解する。	
11	三角比の拡張 正弦定理と余弦定理	$0^{\circ} \leq \theta \leq 180^{\circ}$ の三角比 三角比の相互関係 正弦定理、余弦定理	13	角を鈍角や、 0° ， 90° ， 180° の場合まで拡張し、正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また、それらの相互関係について学習し、計算ができるようにする。三角形のそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し、式の取り扱いができるようにする。	
12	図形の計量	面積 空間図形の計量	11	正弦定理や余弦定理などの活用場面として、平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い、いろいろな図形の辺の長さ、面積・体積などが求められるようにする。	
1	データの分析	度数分布表とヒストグラム データにおける代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差	20	中学校での学習をさらに発展させて分散、標準偏差などの用語を知り、意味を理解させるとともに、それらを利用してデータの傾向を的確にとらえ説明できるようにする。場合によっては、表計算ソフトやグラフ電卓を用いて分散や標準偏差の計算を行う。また、2つの変量の間にどのような関連があるかを考える。相関係数を用いて、その度合を計算する。また、相関係数と散布図の関連を考察し、変量XとYの間の相関関係を調べる。さらに、2つの変量に相関がみられるときに、その因果関係について考えたり、得られたデータからどのように判断するのが妥当かを仮説検定概念から考える。	
2		データの相関と散布図 相関係数			
3	データの分析 統計的探究プロセス	相関と因 データの検証 統計的探究プロセス	10	日常や社会から課題を見つけ、それを統計的に検証し、さらなる課題を見つけていくことができるようにする。	

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第1学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
各単元について、数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		各単元について、数学を活用して事象を論理的に考察したり、他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができるにする。		各単元について、数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする。	
学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「高等学校 深進数学Ⅰ」，傍用問題集「Axis数学ⅠA」，Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	多項式 実数	多項式とその加法，減法，多項式の乗法，因数分解，実数，根号を含む式の計算 実数，根号を含む式の計算	9	2次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深める。さらに，3次の展開や因数分解を学習することを通して，式の見方を豊かにする。数を実数まで拡張する意義を理解し簡単な無理数の四則計算ができるようにする。	
5	1次不等式	1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式	9	不等式の解の意味や不等式の性質を理解し，不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察するとともに，一次不等式の解を求めることができるようにする。さらに，絶対値を含む方程式・不等式や2重根号の学習を通して，方程式・不等式の計算技能を深める。	
6	関数とグラフ	関数 2次関数のグラフ 2次関数の決定	13	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに，2次関数の式とグラフとの関係について，コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができるようにする。	
7	2次関数の最大・最小 2次関数と方程式・不等式	2次関数の最大・最小 応用	10	2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。	
8		2次方程式 2次関数とx軸の共有点 2次不等式 応用		2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し，2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができるようにする。	
9	集合 命題と証明	集合 命題と集合 逆・裏・対偶	12	集合と命題に関する基本的な概念を理解するとともに，集合の考えを用いて論理的に考察し，簡単な命題を証明することができるようにする。	
10	鋭角の三角比	正弦・余弦・正接 相互関係	10	正弦・余弦・正接を直角三角形における辺の比と角の大きさとの関係として導入し，その意味を理解する。また，鋭角の三角比について相互関係を扱い，一つの三角比の値が決まれば，他の三角比の値が計算できることを理解する。	
11	三角比の拡張 正弦定理と余弦定理	$0^{\circ} \leq \theta \leq 180^{\circ}$ の三角比 三角比の相互関係 正弦定理，余弦定理	13	角を鈍角や， 0° ， 90° ， 180° の場合まで拡張し，正弦・余弦・正接の意義を理解できるようにする。また，それらの相互関係について学習し，計算ができるようにする。三角形のそれぞれの辺と角との間に成り立つ基本的な関係を理解し，式の取り扱いができるようにする。	
12	図形の計量	面積 空間図形の計量	11	正弦定理や余弦定理などの活用場面として，平面図形や簡単な空間図形の計量を扱い，いろいろな図形の辺の長さ，面積・体積などが求められるようにする。	
1	データの分析	度数分布表とヒストグラム データにおける代表値 データの散らばりと四分位数 分散と標準偏差	20	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察し，分散，標準偏差，散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解できるようにする。	
2		データの相関と散布図 相関係数			
3	データの分析 統計的探究プロセス	相関と因 データの検証 統計的探究プロセス	10	目的に応じて複数のデータを収集し分析を行い，データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができるようにする。	

教科名	数学	科目名	数学Ⅰ	単位数	3
対象学年 学科・コース	第1学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できるようにする。		数学的な活動を通して、数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えられるようにする。		数学的な活動を通して、考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「新編数学Ⅰ」、傍用問題集「ステップアップノート」、Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	多項式	整式とその加減 整式の乗法 因数分解	9	整式の整理の方法、整式の加法・減法について理解し、指数法則と分配法則にもとづいて整式の乗法を学習し、より効率よく整式を展開するために公式を利用することを理解する。整式を2つ以上の整式の積の形にすること（因数分解）を学習し、式の因数分解をする方法を理解する。	
5	実数	実数 平方根	9	数の範囲を整数、有理数、実数へと拡張し、無理数、実数の意味とその性質を理解する。絶対値の定義や性質について理解する。平方根の意味やその計算、有理化を理解する。	
6	1次不等式	1次不等式	13	数量の大小関係を不等式に表せるようにし、不等式の性質や不等式の解の意味を理解する。1次不等式の解法を理解し、それを利用して、身近な事象について考察する。	
7	集合と命題	集合 命題と集合 論証	10	2つの集合の共通部分・和集合、補集合を理解する。また、集合の要素の個数について、その表し方や集合の間に成り立つ関係式を理解し、集合の要素の個数を求められるようにする。命題、必要条件、十分条件および逆・対偶などについて理解する。	
8					
9	関数とグラフ	2次関数のグラフ 2次関数の決定 2次関数の最大・最小	12	座標平面や関数のグラフについて、2次関数のグラフの基本形を理解する。2次関数の平行移動の考え方をもとにグラフの書き方と特徴を理解する。一般形から標準形に平方完成することを学習し、グラフがかけられるようにする。2次関数の定義域に制限がある場合の最大値・最小値を求める方法を理解する。	
10	2次関数と 方程式・不等式	2次方程式 2次関数のグラフとx軸との 共有点、2次不等式	10	実数に関する性質「 $AB=0$ ならば $A=0$ または $B=0$ 」を理解し、因数分解による2次方程式の解法を学習する。実数解を持つ2次方程式を、解の公式を用いて解くことを学習し、2次方程式の実数解の個数と判別式 $D=b^2-4ac$ の符号の関係について理解する。2次関数のグラフと2次不等式の解の関係を理解し、2次関数のグラフを利用して、2次不等式の解を求められるようにする。	
11	鋭角の三角比	三角比の値 三角比の相互関係	13	直角三角形における三角比の意味を理解し、三角比の表の使い方を理解する。三角比を利用した基本的な計量について学習し、三角比の間にどのような関係が成り立つかを理解し、その関係を利用して三角比の値を求められるようにする。	
12	鈍角の三角比	$0^{\circ} \leq \theta \leq 180^{\circ}$ の三角比 三角比の相互関係	11	角の範囲を 0° から 180° までに広げて三角比を考えられるようにする。単位円を利用して、三角比の値を求めたり、三角比の値から角の大きさを求めたりできるようにする。	
1	図形の計量	正弦定理 余弦定理 図形の計量	8	三角形において、3辺の長ささと3つの角の大きさとの間に成り立つ基本的な関係（正弦定理と余弦定理）を理解し、それらを利用して、未知である辺の長さや角の大きさを求めることができるようにする。三角比を利用して、三角形の面積を求める方法を理解する。	
2	データの分析	データの整理と分析 データの相関 相関係数	12	データに関する基本的な用語・記号を理解する。データを度数分布表やヒストグラムで表すことにより、データの傾向をとらえることができるようにする。2つのデータを散布図に表し、2つのデータの相関関係の有無を判断することができるようにする。	
3	統計的な見方	統計的探究プロセス 仮説検定の考え方	10	PPDACサイクルや仮説検定の考え方を学び、日常・社会の事象の課題を、これらを用いて考えたり、判断したりできるようにする。	

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2
対象学年 学科・コース	第1学年普通科 特別進学コース $\alpha\beta$	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
場合の数と確率、図形の性質、及び数学と人間の活動における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付ける。また、その事象を数学化して数学的に解釈し、数学的に表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる技能を身に付ける		数学的な活動を通して、場合の数と確率、図形の性質、及び数学と人間の活動における数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付け、思考の過程を振り返り事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。		数学的な活動を通して、場合の数と確率、図形の性質、及び数学と人間の活動における考え方に関心・意欲をもつとともに、積極的に取り組み粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとする。	
学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「数学A」、傍用問題集「マスグレード数学ⅠA」、Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	場合の数	集合と要素の個数 場合の数 和の法則 積の法則	5	数え上げの原則として、和の法則と積の法則を確実に理解する。また、樹形図などを用いて基本的な個数処理を学ぶ。	
5	順列・組合せ	順列 円順列と重複順列 組合せ 同じものを含む順列	8	順列・組合せの数について学び、それを具体的な場面に活用できるようにする。	
6	確率と期待値	事象と確率 確率の基本的性質 期待値	8	試行や事象の考えを明確にして、確率の基本的な法則をまとめ、余事象などについて理解する。また、期待値について理解し具体的な場面で活用できるようにする。	
7	いろいろな確率	独立な試行 反復試行 条件付き確率	9	独立な試行とその繰り返しについて、身近な事例をもとにして、確率の計算について理解を深める。また、条件付き確率について、具体例を通してその意味を理解し、いろいろな条件付き確率を求めることができるようにする。	
8					
9	三角形の性質	直線と角 三角形の五心 チェバの定理とメネラウスの定理 三角形の辺と角の関係	9	内角・外角の二等分線と辺の比、辺の長ささと角の大きさとの関係などを学ぶことにより、図形に対する直観力・洞察力を養う。	
10	円の性質	円周角の定理とその逆 円に内接する四角形 円の接線 方べきの定理 2つの円の位置関係	15	円周角の定理とその逆、円に内接する四角形の性質及び四角形が円に内接するための条件、円の接線と接点を通る弦とのなす角の性質、方べきの定理及び2つの円の位置関係について学び、それらを活用できるようにする。	
11					
12	作図 空間図形	作図 平面と直線 多面体	6	ここでは、中学校での学習内容を踏まえ、線分を与えられた比に内分する点や外分する点、与えられた2つの線分の積や商の長さの線分の作図などを学ぶ。平面と直線の位置関係、平面と直線とのなす角や三垂線の定理などを学ぶ。オイラーの多面体定理を学んで、その理由へつなげる。	
1	数学と歴史・文化	位取り記数法とn進法 ユークリッドの互除法 位置の表し方 地球を測る	10	位取り記数法やn進法、ユークリッドの互除法と不定方程式、空間座標や測量について、その歴史とともに学ぶ。	
2					
3	数学とパズル・ゲーム	数学とパズル・ゲーム	8	図形のドミノによる敷き詰めと、石取りゲームにおける必勝法を学ぶ。	

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2
対象学年 学科・コース	第1学年普通科 進学コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
場合の数と確率，図形の性質について，数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。また，数学と人間の活動の関係について認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		場合の数と確率，図形の性質について，数学と人間の活動との関わりに着目し，数学を活用して事象を論理的に考察したり，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察したり，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現することができる。		場合の数と確率，図形の性質について，数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり評価・改善したりしようとする。	
学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い，定期考査および平常点等を「知識・技能」，「思考・判断・表現」，「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「高等学校 深進数学A」，傍用問題集「Axis数学ⅠA」，Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	場合の数	集合と要素の個数 場合の数	5	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則，積の法則などの数え上げの原則について理解できるようにする。	
5	場合の数 順列・組合せ	和の法則 積の法則 順列 円順列と重複順列	8	重複することなく場合の数を数え上げるには，樹形図や表を用いて分類・整理することが有用であることを学習する。具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し，事象の構造などに着目して場合の数を求める方法を多面的に考察し，順列の総数や組合せの総数を求めることができるようにする。また，円順列，重複順列，同じものを含む順列等を扱い，その考え方に習熟する。	
6	順列・組合せ	組合せ 同じものを含む順列	8		
7 8	確率とその基本性質	事象と確率 確率の基本性質	9	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め，それらを用いて事象の確率を求めることができるようにする。また，確率を事象の考察に活用することができるようにする。	
9	いろいろな確率	独立な試行 反復試行 条件付き確率 期待値	9	独立な試行や条件付き確率の意味を理解できるようにする。また，確率の性質や法則に着目して確率を求める方法を多面的に考察し，独立な試行の確率や簡単な場合についての条件付き確率を求めることができるようにする。さらに，それを事象の考察に活用することができるようにする。	
10	三角形の性質	直線と角 三角形の重心・内心・外心 チェバの定理とメネラウスの定理 三角形の成立条件	10	三角形や円に関する基本的な性質について理解するとともに，図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し，図形の新たな性質を見だし，その性質について論理的に考察したり説明したりすることができるようにする。	
11 12	円の性質	円周角の定理とその逆 円に内接する四角形 接線と弦のなす角 方べきの定理 2つの円の位置関係	11	円に関する基本的な性質について理解し，それらが成り立つことを証明することができるようにする。また，それらの性質，定理を事象の考察に活用することができるようにする。	
1 2 3	作図 空間図形	空間における直線・ 平面の位置関係 多面体	18	基本的な図形の性質などをいろいろな図形の作図に活用することができるようにする。 空間図形に関する基本的な性質について理解するとともに，図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し，図形の新たな性質を見だし，その性質について論理的に考察したり説明したりすることができるようにする。	

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2
対象学年 学科・コース	第1学年普通科 総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
場合の数と確率、図形の性質、及び数学と人間の活動における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につける。また、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できるようにする。		数学的な活動を通して、場合の数と確率、図形の性質、及び数学と人間の活動における数学的な見方や考え方を身につけ、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。		数学的な活動を通して、場合の数と確率、図形の性質、及び数学と人間の活動における考え方に感心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する。	
学習内容の概要	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	規定に従い、定期考査および平常点等を「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	啓林館「新編数学A」、傍用問題集「ステップアップノート」、Libry				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	集合 場合の数	集合 集合と要素の個数 場合の数	5	集合に関する基本的な用語・記号を理解し、2つの集合の共通部分・和集合、補集合を理解する。場合の数の意味を理解し、和の法則・積の法則を利用して、能率的に場合の数を求められるようにする。	
5	順列・組合せ	順列 組合せ いろいろな順列	8	順列の意味と、その総数を求めることを理解し、重複順列の意味と、その総数の求め方を理解する。組合せの意味とその総数を求めることを理解し、円順列や同じものを含む順列の意味と、その数の求め方について理解する。	
6	確率とその基本性質	事象と確率 確率の基本性質 期待値	17	硬貨投げやさいころなどの簡単な問題で、根元事象を見極めて確率を求める方法を理解する。順列や組合せの数をを用いた確率の求め方を理解する。加法定理などの確率の基本性質、余事象の確率を理解し、これらを利用して確率の計算ができるようにする。期待値について、その意味を理解し、簡単な試行について損得を考えられるようにする。	
7					
8					
9	いろいろな確率	独立な試行 反復試行 条件付き確率	9	試行の独立の意味を理解し、試行が独立であるときの事象の確率が求められるようにする。反復試行の意味を理解し、これを用いて確率の計算ができるようにする。条件付き確率の意味を理解し、簡単な場面について条件付き確率を求めることができるようにする。	
10	三角形の性質	直線と角 三角形の重心・内心・外心 チェバの定理とメネラウスの定理	10	内分と外分について理解します三角形の角の2等分線が対辺を残りの2辺の比に分けることを理解する。三角形の重心、外心、内心、垂心を定義し、それらの性質と位置関係について理解する。チェバの定理とメネラウスの定理について理解し、問題に生かせるようにする。	
11	円の性質	円周角 円と直線 2つの円の位置関係	11	円周角の定理について理解し、問題に生かせるようにする。円に内接する四角形の性質や四角形が円に内接する条件を理解する。円と直線の位置関係、円外の点から円に引いた2本の接線の長さが等しいことを理解する。接線と弦のなす角の関係、方べきの定理を理解する。2つの円の位置関係、共通接線について理解する。	
12					
1	空間図形	平面と直線 多面体	18	空間図形に関する基本的な性質について理解するとともに、図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができるようにする。	
2					
3					

教科名		理科	科目名		科学と人間生活	単位数	2単位
対象学年		第1学年 普通科総合選択コース		履修形態	必修	授業形態	講義
知識・技能			思考力・判断力・表現力			主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。			習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。			知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標		自然と人間生活とのかかわりおよび科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解し、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。					
学習内容の概要		自然の原理・法則や科学技術の発展と人間生活とのかかわりについて理解し、社会が発展するための基盤となる科学に対する興味・関心を高める。					
学習方法		教科書に沿って進め、副教材や視聴覚教材を利用しながら、教科書の内容を理解させる。					
評価の観点・評価方法		教務規定に従い評価する。					
使用教材		実教出版 教科書「科学と人間生活」 副教材「科学と人間生活エブリィノート 授業のまとめ」・「アクセスノート科学と人間生活」					
その他		生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出をさせる。					
年間授業計画							
月	項目	学習内容		時間	学習のポイント		主な学校行事
4	1章 科学と技術の発展	1.科学と技術の始まり 2.海—とくに深海を科学の眼で見よう— 3.土—農業を通して考える—		8	・現代の科学技術文明が科学によって支えられ、発展してきたことを理解させる。 ・海洋の研究・調査の話題を通して、科学の各分野がかかわっていること、科学の研究が私たちの生活にいかされていることを理解させる。 ・農業には、生物や気象などさまざまな自然現象が関連しており、科学技術を利用することで農業が発展してきたことを理解させる。 ・自然界には未知のことが多くあるとともに、科学技術によって地球環境に影響を及ぼすことがあることを理解させる。		始業式
5		2章 物質の科学	1節 材料とその再利用 1.生活の中のさまざまな物質 2. 金属 3. プラスチック 4. セラミック 特集 リサイクル		16	・身の回りの天然の物質や人工の物質がどのような成り立ちでできているか確認させる。 ・原子の構造、化学結合について理解させ、それらが物質の性質と関係していることに気付かせる。 ・金属の製錬法に触れて理解させる。・金属の利用や腐食の防止について、金属の性質に関連して考えさせる。 ・プラスチックの性質・特徴や含まれる成分の違い、構造の違い、安全性についても言及する。 ・原料や製造方法を変えたり、また、技術の向上によって様々な特性を持ったプラスチックが製造できることに気付かせ、特徴について理解させる。 ・セラミックスは、古代から利用されている土器から現代の最先端の技術までを結びつけられることを理解させる。 ・限られた資源・エネルギーを大切にするために、資源の再利用を考えることが必要であることを理解させる。	
6						期末考査	
7	3章 生命の科学	2節 微生物とその利用 1. いろいろな微生物 特集 いろいろな微生物のなかま 2. 微生物の利用 3. 生態系での微生物		16	・空気中の微生物の培養や水中の微生物の観察を通し、身近にいろいろな微生物がいることに気づかせる。 ・微生物発見の歴史について学習する。・発酵食品中の微生物の観察を通し、発酵が私たちの生活に深く関わっていることを理解させる。 ・腐敗も微生物の働きによっていることを理解させ、腐敗を防ぐための食品の保存方法についても考えさせる。 ・微生物は、医薬品を作ることに役立っていることを、ペニシリン発見にも触れながら理解させる。 ・遺伝子組換えによりつくられる医薬品があることや、ワクチンが病気の予防に役立っていることを学習させる。 ・下水処理の仕組みを学習させ、下水処理には微生物の働きが関わっていることを理解させる。 ・生態系での物質循環に微生物がどのように関わっているかを学習させる。		始業式
8							
9							
10	4章 光や熱の科学	2節 熱の性質とその利用 1. 熱 2. 熱の発生 3. エネルギーの変換と利用 特集 電磁波と宇宙・地球の観測		16	・熱の伝わり方を理解させる。 ・物質は(分子・原子・イオン)からできており、それらは温度によって運動の激しさが変わり、状態も変化することを理解させる。 ・熱量はやりとりする物体間で保存することを理解させる。 ・熱だけでなく仕事をするだけでも温度を上げることができ、仕事やエネルギーと発熱の関係を理解させる。 ・電気エネルギー、化学エネルギー、光エネルギーと発熱について理解させ、特に電気エネルギーについてはジュール熱と電力の計算ができるようにさせる。 ・エネルギーにはさまざまな形態があり、相互に変換することを理解させ、外部との間でエネルギーの出入りがなければ、総和は保存されることを理解させる。		中間考査
11							期末考査
12	5章 宇宙や地球の科学	1節 太陽と地球 1. 太陽系の天体と人間生活 2. 潮汐と人間生活 特集 潮汐と人間や生物とのかかわり 3. 太陽の放射エネルギー		16	・太陽や星の天球上の日周運動や年周運動を、地球の自転運動と公転運動から理解させる。 ・太陽の天球上の運行や月の満ち欠けの周期性が時や暦など人間生活に深く関わっていることを学習させる。 ・日頃使っている時間や暦が地球の自転運動と公転運動に関連していることを理解させる。 ・海面の変動を示した写真から干潮や満潮を見いだすとともに、潮汐と月齢に関する資料をもとに、太陽、月、地球の位置関係の変化や地球の自転が潮汐にかかわっていることを理解させる。 ・太陽について、大きさや表面の様子を理解させるとともに、太陽の活動が地球の環境に様々な影響を及ぼしていることに気づかせる。 ・太陽の高度による太陽の放射エネルギーの変化を理解させる。 ・太陽の放射エネルギーが地球の大気や海水など、人間生活に影響を及ぼしていることに触れる。		終業式 始業式
1							期末考査
2							期末考査
3	6章 これからの科学と人間生活	(課題研究等)		6	・科学技術の成果と今後の課題について考察し、科学技術と人間生活との関わりについて探究させる。		

教科名		理科		科目名		物理基礎		単位数		2単位		
対象学年		第1学年 普通科特別進学コース			履修形態		必修		授業形態		講義	
知識・技能				思考力・判断力・表現力				主体的に学習に取り組む態度				
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。				習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。				知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。				
科目の目標		大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の物理分野における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。										
学習内容の概要		物理分野における知識の基本的な内容から発展的内容まで理解する。										
学習方法		問題集や提出課題を通して内容を理解させる。										
評価の観点・評価方法		教務規定に従い評価する。										
使用教材		実教出版 教科書「高校物理基礎」 副教材「高校物理基礎サブノート」・「高校物理基礎エブリノート 授業のまとめ」										
その他		生徒の進路や習熟度に応じて授業を行う。										
年 間 授 業 計 画												
月	項 目	学 習 内 容				時間	学習のポイント				主な学校行事	
4	1章 物体の運動	第1節 運動の表し方 ①速さとその表し方 ②等速直線運動 ③速さと速度・変位 ④速度の合成と相対速度 ⑤加速度 ⑥等加速度直線運動 ⑦自由落下運動・鉛直投げ下ろし運動 ⑧鉛直投げ上げ運動・水平投射投射				28	速度が向きをもった量であることを理解させる。相対速度の式を理解させる。直線運動における加速度の定義を理解させる。落体の運動は、加速度の大きさgの等加速度直線運動であることを理解させる。				始業式	
5											中間考査	
6		第2節 力と運動の法則 ①力 ②力の合成・分解 ③力のつりあい ④作用・反作用の法則 ⑤慣性の法則 ⑥運動の法則(力と加速度の関係) ⑦運動の法則(質量と加速度の関係) ⑧運動方程式 ⑨摩擦力 ⑩圧力と浮力					力は向きと大きさをもったベクトル量であること、重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力について理解させる。力はベクトル量であり、合成や分解ができることを理解させる。慣性の法則、運動の法則を理解させ、運動方程式の立て方を習得させる。流体での圧力、浮力について理解させる。				期末考査	
7											終業式	
8	2章 エネルギー	第1節 運動とエネルギー ①仕事 ②仕事の性質と仕事率 ③運動エネルギー ④位置エネルギー ⑤力学的エネルギー保存の法則				30	仕事の定義、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係が導かれる過程を理解させる。重力による位置エネルギーを理解させる。力学的エネルギー保存則を理解させる。				始業式	
9		第2節 熱とエネルギー ①熱と温度 ②温度変化に必要な熱量 ③熱の移動と比熱の測定 ④熱と仕事 ⑤熱機関の効率					熱がエネルギーの一形態であることを理解させる。物質の3態の熱運動、熱量保存の法則、熱力学第一法則を理解させる。				中間考査	
10												
11	3章 波	第1節 波の性質 ①波とは何か ②波の性質 ③横波と縦波 ④波の重ね合わせの原理 ⑤定在波 ⑥波の反射					波動について説明し、波が正弦波であることを理解させる。波の重ねあわせの原理を理解させる。					
12		第2節 音と振動 ①音の伝わり方 ②弦の振動 ③気柱の振動					音波の性質を理解させる。共振と共鳴現象を通じて、固有振動を理解させる。				期末考査	
1	4章 電気	第1節 物質と電流 ①静電気と電子 ②電流と電気抵抗 ③抵抗の接続 ④抵抗率 ⑤電力と電力量				20	物体が帯電するしくみを理解させる。オームの法則を理解させる。導体の温度上昇、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解させる。				始業式	
2		第2節 電流と磁場 ①磁場 ②電磁誘導 ③変圧と送電 ④電気の利用と電磁波					交流の電圧、交流発電機、変圧器のしくみを理解させる。電磁波(電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、γ線)の性質を理解させる。				期末考査	
3	5章 物理と社会	第1節 エネルギーとその利用 ①エネルギーの変換と私たちの暮らし ②電気エネルギーへの変換 ③原子核エネルギー ④放射線 ⑤科学的に判断すること					様々なエネルギー種類と具体的な利用、エネルギー保存の法則を理解させる。原子力発電のしくみなどについて理解させる。				終業式	

教科名		理科		科目名		物理基礎		単位数		2単位		
対象学年		第1学年 普通科進学コース			履修形態		必修		授業形態		講義	
知識・技能				思考力・判断力・表現力				主体的に学習に取り組む態度				
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。				習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につけているか。				知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。				
科目の目標		大学受験を目指す生徒に対し、自然科学の物理分野における一般的な教養を身につけさせることを目標にしている。										
学習内容の概要		物理分野における知識の基本的な内容から発展的内容まで理解する。										
学習方法		問題集や提出課題を通して内容を理解させる。										
評価の観点・評価方法		教務規定に従い評価する。										
使用教材		実教出版 教科書「高校物理基礎」 副教材「高校物理基礎サブノート」・「高校物理基礎エブリノート 授業のまとめ」										
その他		生徒の進路や習熟度に応じて授業を行う。										
年 間 授 業 計 画												
月	項 目	学 習 内 容				時間	学習のポイント				主な学校行事	
4	1章 物体の運動	第1節 運動の表し方 ①速さとその表し方 ②等速直線運動 ③速さと速度・変位 ④速度の合成と相対速度 ⑤加速度 ⑥等加速度直線運動 ⑦自由落下運動・鉛直投げ下ろし運動 ⑧鉛直投げ上げ運動・水平投射投射				28	速度が向きをもった量であることを理解させる。相対速度の式を理解させる。直線運動における加速度の定義を理解させる。落体の運動は、加速度の大きさgの等加速度直線運動であることを理解させる。				始業式	
5											中間考査	
6		第2節 力と運動の法則 ①力 ②力の合成・分解 ③力のつりあい ④作用・反作用の法則 ⑤慣性の法則 ⑥運動の法則(力と加速度の関係) ⑦運動の法則(質量と加速度の関係) ⑧運動方程式 ⑨摩擦力 ⑩圧力と浮力					力は向きと大きさをもったベクトル量であること、重力、垂直抗力、摩擦力、弾性力について理解させる。力はベクトル量であり、合成や分解ができることを理解させる。慣性の法則、運動の法則を理解させ、運動方程式の立て方を習得させる。流体での圧力、浮力について理解させる。				期末考査	
7											終業式	
8	2章 エネルギー	第1節 運動とエネルギー ①仕事 ②仕事の性質と仕事率 ③運動エネルギー ④位置エネルギー ⑤力学的エネルギー保存の法則				30	仕事の定義、物体の運動エネルギーの変化が物体にされた仕事に等しいこと、および、この関係が導かれる過程を理解させる。重力による位置エネルギーを理解させる。力学的エネルギー保存則を理解させる。				始業式	
9		第2節 熱とエネルギー ①熱と温度 ②温度変化に必要な熱量 ③熱の移動と比熱の測定 ④熱と仕事 ⑤熱機関の効率					熱がエネルギーの一形態であることを理解させる。物質の3態の熱運動、熱量保存の法則、熱力学第一法則を理解させる。				中間考査	
10												
11	3章 波	第1節 波の性質 ①波とは何か ②波の性質 ③横波と縦波 ④波の重ね合わせの原理 ⑤定在波 ⑥波の反射					波動について説明し、波が正弦波であることを理解させる。波の重ねあわせの原理を理解させる。					
12		第2節 音と振動 ①音の伝わり方 ②弦の振動 ③気柱の振動					音波の性質を理解させる。共振と共鳴現象を通じて、固有振動を理解させる。				期末考査	
1	4章 電気	第1節 物質と電流 ①静電気と電子 ②電流と電気抵抗 ③抵抗の接続 ④抵抗率 ⑤電力と電力量				20	物体が帯電するしくみを理解させる。オームの法則を理解させる。導体の温度上昇、発熱量が電流と電圧と時間の積で表されることを理解させる。				始業式	
2		第2節 電流と磁場 ①磁場 ②電磁誘導 ③変圧と送電 ④電気の利用と電磁波					交流の電圧、交流発電機、変圧器のしくみを理解させる。電磁波(電波、赤外線、可視光線、紫外線、X線、γ線)の性質を理解させる。				期末考査	
3	5章 物理と社会	第1節 エネルギーとその利用 ①エネルギーの変換と私たちの暮らし ②電気エネルギーへの変換 ③原子核エネルギー ④放射線 ⑤科学的に判断すること					様々なエネルギー種類と具体的な利用、エネルギー保存の法則を理解させる。原子力発電のしくみなどについて理解させる。				終業式	

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第1学年普通科特進	履修形態	必修	授業形態	講義	
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度		
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身に付けているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。		
科目の目標	自然科学の生物分野における一般的な教養を身につけさせることを目標とする。					
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う。					
学習方法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる。					
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。					
使用教材	教科書、数研出版 新編生物基礎 問題集、数研出版 新課程リードLightノート生物基礎					
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行う					
年 間 授 業 計 画						
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事	
4	序章 生命の探求	顕微鏡の使い方と顕微鏡観察	4	顕微鏡・ミクロメーターの使い方を理解させる。	始業式	
5	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性	4	多様な生物種の中にも共通性があることを理解させる。共通性の1つである細胞が生物の基本単位であること、細胞小器官の構造、動・植物の細胞の違いなどについて理解させる。 共通性の1つである代謝について学ぶ。中でもエネルギーの観点から同化・異化の内容、酵素反応について理解させる。 共通性の1つである個体の増殖についてまなぶ。また、遺伝子の本体であるDNAの構造やDNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。DNAが複製され遺伝情報が分配されることを理解する。遺伝子発現の仕組みなどについて理解させる。細胞が様々な形態やはたらきに分化することを理解させる。	中間考査	
		エネルギーと代謝	4			
6		呼吸と光合成	5			
7	第2章 遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA	5	共通性の1つである個体の増殖についてまなぶ。また、遺伝子の本体であるDNAの構造やDNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。DNAが複製され遺伝情報が分配されることを理解する。遺伝子発現の仕組みなどについて理解させる。細胞が様々な形態やはたらきに分化することを理解させる。	期末考査 終業式 夏期補習	
8		遺伝情報の複製と分配	5			
9		遺伝情報の発現	6			
10	第3章 ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節	8	ヒトの体内環境の維持についてのメカニズムについて学び、健康との関係を理解させる。 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係している仕組みについて学ぶ。また、それらは自律神経系と内分泌系の協調により調節していることを理解させる。また、生体防御としての免疫についても学ぶ。	中間考査	
		体内環境の維持のしくみ	8			
11		免疫のはたらき	8			
12	第4章 植生の多様性と生態系	植生と遷移	5	植生は長期的に移り変わるが、その要因はどのようなものが関係するかについて学び理解させる。 気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成り立っていることを理解させる。 生態系のしくみやそのバランスについて学び理解させ、人間生活が生態系に与える影響と、保全重要性を理解する。	期末考査	
1		植生の分布とバイオーム	5		終業式	
		生態系と生物の多様性	6		始業式	
2		生態系のバランスと保全	5		生態系のしくみやそのバランスについて学び理解させ、人間生活が生態系に与える影響と、保全重要性を理解する。	卒業式 期末考査
3						

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2 単位
対象学年	第1学年普通科進学	履修形態	必修	授業形態	講義
知識・技能		思考力・判断力・表現力		主体的に学習に取り組む態度	
科学知識の習得や知識の概念的な理解や、観察・実験操作の基本的な技術を身に付けているか。		習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身に付けているか。		知識・技能の習得や科学的思考力・科学的判断力・表現力などを身につける過程において、主体的に学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。	
科目の目標	自然科学の生物分野における一般的な教養を身につけさせることを目標とする。				
学習内容の概要	教科書の内容に準じた知識の習得と、自然科学の探求に必要な思考力を問う。				
学習方法	演示実験や生徒実験および視聴覚教材を利用しながら教科書の内容を理解させる。また、問題演習を通じて思考力や計算力を身につけさせる。				
評価の観点・評価方法	教務規定に従い評価する。				
使用教材	教科書、数研出版 新編生物基礎 問題集、数研出版 新課程リードLightノート生物基礎				
その他	生徒の進路や習熟度に応じて宿題提出を行う				

年 間 授 業 計 画					
月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント	主な学校行事
4	序章 生命の探求	顕微鏡の使い方と顕微鏡観察	4	顕微鏡・ミクロメーターの使い方を理解させる。	始業式
5	第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通性	4	多様な生物種の中にも共通性があることを理解させる。共通性の1つである細胞が生物の基本単位であること、細胞小器官の構造、動・植物の細胞の違いなどについて理解させる。 共通性の1つである代謝について学ぶ。中でもエネルギーの観点から同化・異化の内容、酵素反応について理解させる。 共通性の1つである個体の増殖についてまなぶ。また、遺伝子の本体であるDNAの構造やDNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。DNAが複製され遺伝情報が分配されることを理解する。遺伝子発現の仕組みなどについて理解させる。細胞が様々な形態やはたらきに分化することを理解させる。	中間考査
6		エネルギーと代謝	4		
7		呼吸と光合成	5		
8	第2章 遺伝子とそのはたらき	遺伝情報とDNA	5	共通性の1つである個体の増殖についてまなぶ。また、遺伝子の本体であるDNAの構造やDNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解する。DNAが複製され遺伝情報が分配されることを理解する。遺伝子発現の仕組みなどについて理解させる。細胞が様々な形態やはたらきに分化することを理解させる。	期末考査 終業式 夏期補習 始業式
9		遺伝情報の複製と分配	5		
10		遺伝情報の発現	6		
11	第3章 ヒトの体内環境の維持	体内での情報伝達と調節	8	ヒトの体内環境の維持についてのメカニズムについて学び、健康との関係を理解させる。 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係している仕組みについて学ぶ。また、それらは自律神経系と内分泌系の協調により調節していることを理解させる。また、生体防御としての免疫についても学ぶ。	中間考査
12		体内環境の維持のしくみ	8		
1		免疫のはたらき	8		
2	第4章 植生の多様性と生態系	植生と遷移	5	植生は長期的に移り変わるが、その要因はどのようなものが関係するかについて学び理解させる。 気温と降水量の違いによって様々なバイオームが成り立っていることを理解させる。 生態系のしくみやそのバランスについて学び理解させ、人間生活が生態系に与える影響と、保全重要性を理解する。	期末考査 終業式 始業式 卒業式 期末考査
3		植生の分布とバイオーム	5		
4		生態系と生物の多様性	6		
5		生態系のバランスと保全	5		

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2
対象学年 学科・コース	全コース	履修形態	必修	授業形態	実技
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。		自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる	
学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点・ 評価方法	規定に準じ実技試験により評価				
使用教材					
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	体づくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	6	集団行動の基本行動と身につけることができる	
5	陸上	走力 (短距離・長距離)	6	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。	
6	陸上	投擲 跳躍	8		
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
8	バレーボール	アンダーハンドパス オーバーハンドパス	4		
9	バレーボール	サーブ ゲーム	8		
10	体操	柔軟運動 前転後転 倒立、発展技	8	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
11	サッカー	基本技術の習得・ゲーム リフティング	8	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、サッカーの基本技術を身につけるとともに、サッカーの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
12	サッカー	パス ドリブル ゲーム	6		
1	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
2	バスケットボール	パス シュート	6		
3	バスケットボール	ディフェンス ゲーム	6		

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2
対象学年 学科・コース	全コース	履修形態	必修	授業形態	実技
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。		自己や仲間の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて課題に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともにそれらを他者に伝えることができる		運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的計画的な実践に取り組もうとしている。また、健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについて主体的に取り組む姿勢をつくる	
学習内容の概要	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点・ 評価方法	規定に準じ実技試験により評価				
使用教材					
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	体づくり運動	柔軟体操 筋力トレーニング 集団行動	6	集団行動の基本行動と身につけることができる	
5	陸上	走力 (短距離・長距離)	6	個人の運動能力をそれぞれ理解し、安全に留意し仲間と協力して取り組み、ひとりひとりの自己ベストを目指す。	
6	陸上	投擲 跳躍	8		
7	バレーボール	基本技術の習得・ゲーム	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バレーボールの基本技術を身につけるとともに、バレーボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
8	バレーボール	ボールハンドリング アンダーハンドパス オーバーハンドパス	4		
9	バレーボール	サーブ ゲーム	8		
10	体操	柔軟運動 前転後転 倒立、発展技	8	安全に特に留意し、自己の能力に応じた技術を習得する	
11	ダンス	創作ダンス	8	グループで話し合い意欲的に取り組むことができる 仲間の動きと自身の動きを確認しあい協力して一つの作品を作り上げることができる	
12			6		
1	バスケットボール	基本技術の習得・ゲーム ボールハンドリング パス シュート ディフェンス ゲーム	6	安全に留意し、お互い協力しながら練習とゲームを行い、バスケットボールの基本技術を身につけるとともに、バスケットボールの特性を理解する ゲームでは自身の役割を理解し取り組む	
2	バスケットボール		6		
3	バスケットボール		6		

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1
対象学年 学科・コース	全コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身につけている。		健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。		生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
学習内容の概要	わが国の健康について考え、健康を保持増進し、正しい生活行動を選び実践する事や環境を改善していく努力の重要性を理解できるようにする。				
評価の観点・ 評価方法	教務規定に準じ定期考査と課題				
使用教材	新高等保健体育教科書・ノート／DVD				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	・人体 ・日本における健康課題の変遷	骨格・臓器 健康水準の変化 疾病構造の変化	3	・自分の体がどうできているのか、どう働いているのかその仕組みを理解する ・健康指標や健康水準、疾病構造の変化から社会の状況を知る	
5	喫煙と健康	喫煙による健康影響 たばこ問題への対策	3	喫煙の問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	
6	飲酒と健康	飲酒による健康影響や社会問題	4	飲酒による健康被害の防止に必要な対策について理解する	
7	薬物乱用と健康	薬物乱用による健康影響と社会問題 防止の為の対策	3	薬物乱用の問題をさまざまな角度から考え、どのような対策が必要か学ぶ。	
8	健康の考え方と成り立ち	健康に関する考え方	2	健康の考え方が変化していることを学習する。	
9	現代における感染症の問題	時代や地域で変化する感染症	4	新たな感染症問題の防止のため自分のやれる事、社会がすべき事を学ぶ。	
10	感染症の予防	感染症予防の3原則と蔓延防止の為の対策	4	感染症予防の三原則について理解する	
11	性感染症・エイズとその予防	性感染症・エイズとは 予防のための対策	4	性感染症・エイズの実態について日本、世界の状態を学ぶ。	
12	生活習慣病の予防と回復	生活習慣病とは 予防と回復のための取り組み	3	生活習慣病の予防や回復のために必要な個人と社会の取り組みについて理解する	
1	身体活動・運動と健康	身体活動・運動に実践と社会環境の整備	3	身体活動・運動と健康の関係について理解する	
2	食事と健康	健康的な食生活の実践と社会環境の整備	3	健康にとっての食事の意義を学習する	
3	休養・睡眠と健康 がんの予防と回復	健康づくりのための休養・睡眠の確保 がんの予防・治療と社会的な取り組み	3	・休養・睡眠と健康と健康の関係について理解する ・がんの予防や回復のために必要な個人と社会の取り組みについて理解する	

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	3 単位
対象学年 学科・コース	第 1 学年 特別進学コース α・β	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
既習事項を的確な場面で使用することができるようになる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現することができる。		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることができる。	
学習内容の概要	学習指導要領に基づき、「英語コミュニケーションⅠ」の内容のコミュニケーション活動とそれを更に発展させた活動（プレゼンテーション等）を行う。				
評価の観点・ 評価方法	1 学期・2 学期・3 学期とも、英語学習の五つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと）における諸活動や定期考査及び小テスト等の結果を基に、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点で評価を行う。				
使用教材	『MY WAY English Communication Ⅰ』（三省堂）、『マイウェイ総合英語』（三省堂）、『必修英単語 LEAP』（数研出版）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Starter	「英語の文の仕組み」	1	基礎知識を身につける。	
	Proverbs Around the World	「世界のことわざ」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	「英語の文の仕組み」	1	テーマに沿って意見をまとめる。	
5	Iwago Mitsuaki—An Animal Photographer	「岩合光昭さんへのインタビュー」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	Photo Ark	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
6	Sending Canned Mackerel to Space	「高校生が作ったサバ缶が宇宙食に」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	The World of Ramen	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
7	Messages from Winnie-the-Pooh	「『くまのプーさん』に込められたメッセージ」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	The Moomin Series	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
8	Endangered Languages	「消滅の危機にある世界の言語」	7	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	Emotiki	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
9	A Wheelchair Traveler	「車いすで世界一周した三代達也さんのブログ」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	Yasashii Nihongo	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
10	The Fugees	「難民の子どもたちのためのサッカーチーム」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	The Refugee Olympic Team	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
11	Avatar Robots	「分身ロボットで広がる未来」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	Weak Robots	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
12	A Wheelchair Traveler	「角野栄子さんとその想像力」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	Magic Tree House	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
1	SDGs—Sustainable Development Goals	「SDGs に関するプレゼンテーション」	8	教科書の内容理解、文法事項の定着	
	Challenge	Magic Tree House	2	テーマに沿って意見をまとめる。	
2	Project	「プレゼンテーションをしよう」	10	与えられたテーマに沿ったプレゼンテーションを作成し、発表。	
3	The Tale of Johnny Town-Mouse	「田舎で暮らすネズミが、街で経験したのは……」	10	物語に沿って、内容を理解し、自分の言葉で要約をする。	

教科名	外国語（英語）	科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4 単位
対象学年 学科・コース	第1 学年 進学コースGM	履修形態	必修	授業形態	【講義】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
基本的な英語で書かれた英文や対話文を読んだり聞いたりし、その話題について概要を把握し、情報や考えを論理的に整理することが出来る。		読んだり聞いたりした内容に関して、自分の意見を持つことが出来る。また、自分自身や身近な事柄について、簡単な語句・表現・文法を用いて簡潔に相手に伝えることが出来る。		課題を自ら見つけ、自律的に粘り強く学び続けようとしている。また、他者とのコミュニケーションを積極的に取ろうとしている。	
学習内容の概要	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
評価の観点・ 評価方法	1. 【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】定期考査(80%)と小テスト(20%) 2. 【主体的に学習に取り組む態度】パフォーマンステストと授業中の取り組み				
使用教材	教科書「VISTA English CommunicationⅠ」（三省堂 2022年）、 ワークブック「VISTA English CommunicationⅠ Workbook」（三省堂 2022年）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Get Ready！1～4、 ののちゃんの英文法	国の名前や身近なものを英語で表現したり、辞書の使い方を学ぶ。また、中学校までの英文法を復習する。	12	国の名前や身近なものを英語で表現できる。また、辞書の引き方を知り、その使用に慣れる。	
5	L1 Colors of Spring L2 Dick Bruna	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。 春や色(L1)、キャラクターや本(L2)について意見交換をする。	12	春や色(L1)、キャラクターや本(L2)について、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
6	L3 Interesting Sports Look and Learn 1	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。スポーツや過去の行動について意見交換をする。	16	スポーツや過去の行動について、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
7	Take a Break!1 Enjoy Communication!1	買い物の場面でよく使われる表現を学び、対話をする。	12	買い物をする場面において、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に相手とやり取りが出来る。	
8	L4 Pictograms	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。オリンピックやピクトグラム、自分のできることについて話して伝え合う。	10	オリンピックやピクトグラム、自分のできることについて、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
9	L5 We Are Part of Nature Look and Learn2 Take a Break!2	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。ネコ/職業/自然ポスターについて自分の意見を話して伝え合う。	16	ネコ/職業/自然ポスターについて、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
10	L6 Machu Picchu L7 Artificial Intelligence	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。マチュピチュ(L6)、ロボット、AI製品(L7)について自分の意見を話して伝え合う。	16	マチュピチュ(L6)、ロボット、AI製品(L7)について、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
11	Look and Learn3 Enjoy Communication!2 L8 Is There a Santa Claus?	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。サンタクロース/信念/人物当てについて自分の考えを話して伝え合う。	16	サンタクロース/信念/人物当てについて、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
12	L9 Kids' Guernica Look and Learn4 Take a Break!3	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。ゲルニカ/絵を描くことについて自分の考えを話して伝え合う。	12	ゲルニカ/絵を描くことについて、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
1	L10 Ethical Fashion	本文の概要や要点を聞き取ったり読み取ったりし問題に答える。エシカルファッション/比較について自分の考えを話して伝え合う。	12	エシカルファッション/比較について、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に自分の考えを話して伝え合うことが出来る。	
2	The Story of Oshin, a Japanese Cinderella	読み物を読んで内容を把握する。仮定法過去について学ぶ。	12	物語の内容についての問題に答えることが出来る。また、仮定法過去を使って自分のことを表現できる。	
3	Look and Learn5 Enjoy Communication!3	道案内での会話でよく使われる表現を学ぶ。	12	道案内をする場面において、基本的な語句や文を用いて与えられた形式を参考に相手とやり取りが出来る。	

教科名	外国語	科目名	英語コミュニケーションⅠ	単位数	4
対象学年 学科・コース	第1学年総合選択 コース（1ABCDE）	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ基礎知識や得た情報を的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現できる。		積極的に他者とのコミュニケーションを図ろうする態度を身に着けることができる。	
学習内容の概要	学習指導要領に基づく英語コミュニケーションⅠの内容。特に他者とのコミュニケーションを図ろうとする力の育成に重点を置いた、基礎力定着活動を行う。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習5技能（聞く・読む・話す「やり取り」・話す「発表」・書く）における定期考査や小テストをもとに、【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的な学習に取り組む態度】も3観点で評価を行う。				
使用教材	教科書「VISTA English Communication 1」（三省堂2022年） / WORKBOOK（三省堂版準拠）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Get Ready①～④	アルファベット 辞書で調べてみよう Classroom English	12	中学までに学習した「アルファベット」「単語の書き方」「辞書の引き方」「教室での英語の使用」について、言語活動へつなげることができる。	
5	L 1 Colors of Spring L 2 Dick Bruna	be動詞・一般動詞の現在形 be動詞の過去形、一般動詞の過去形	12	春の色や、キャラクターについて意見交換することができる。	
6	L3 Interesting Sports	現在進行形、過去進行形、 代名詞、ことばの順序 いろいろな文の形態	16	スポーツや過去の行動について意見交換をすることができる。	
7	Take a Break! 1 Enjoy Communication1	助動詞、許可を求める表現 客と店員の典型的なやり取りの表現	12	買い物の場面でよく使われる表現を学び、基本的な語句を用いて対話することができる。	
8	L4 Pictograms	動名詞の用法 助動詞	4	オリンピックやピクトグラム、自分のできることについて話し合い、考えを伝えることができる。	
9	L5 We Are Part of Nature Take a Break!2	不定詞の用法 提案するときの表現	16	ネコ/職業/自然ポスターについて、自分の意見を話して伝え合うことができる。	
10	L6 Machu Picchu L7 Artificial Intelligence	現在完了形 手紙を書くときの表現	16	マチュピチュ、ロボット、AI製品について自分の考えを話して伝え合うことができる。	
11	Enjoy Communication!2 L8 Is There a Santa Claus?	受動態（現在・過去・否定・疑問） 関係代名詞	16	サンタクロース/信念/人物当てについて、自分の考えを話して伝え合う。	
12	L 9 Kids'Guernica Take a Break! 3	名詞を修飾する現在分詞・ 過去分詞 関係副詞	12	ゲルニカや絵を描くことについて、基本的な語句を用いて自分の考えを伝えることができる。	
1	L10 Ethical Fashion	比較級・最上級・原級 を用いた比較	12	エシカルファッションについてや、比較することについて自分の考えを話して伝え合うことができる。	
2	The Story of Oshin, a Japanese Cinderella	仮定法過去 I wish を用いた表現	16	物語の内容についての問題に答えることができる。また仮定法過去を使って自分のことを表現できる。	
3	Enjoy Communication!3	知覚動詞、過去完了形、過去完了進行形	12	道案内をする場面において、基本的な語句や文を用いて、相手とやり取りすることができる。	

教科名	外国語	科目名	論理・表現Ⅰ	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	第1学年 特別進学コースαβ	履修形態	必修	授業形態	【講義・実習】
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
学んだ知識や得た情報を理解・整理し、的確に使用することができる。		自分の考えや意見を日常的な英語表現を用いて表現することができる。		英語を用いて積極的に相手とのコミュニケーションや課題に向かう態度を身につけることができる。	
学習内容の概要	学習指導要領に基づく「論理・表現Ⅰ」の内容。各課では学習項目のインプットだけでなく、思考・判断・表現の力の育成に向けた表現活動も重視して行う。				
評価の観点・ 評価方法	英語学習の5領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くこと）における諸活動や定期考査、小テスト等の結果を基に、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で評価を行う。				
使用教材	教科書『EARTHRISE Logic and ExpressionⅠ』（数研出版）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	Lesson 1	説明・紹介する	4	「紹介」をテーマに英語でやり取り、発表、英作文をする。	
5	Lesson 2 Lesson 3	時を表す（現在・過去・未来） 時を表す（完了形）	8	「週末の過ごし方」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。 「旅行」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。	
6	Lesson 4	能力・義務・許可などを表す	8	「道案内」のロールプレイ、その実演、「謝罪」の英作文をする。	
7	Lesson 5	依頼・勧誘や推量などを表す	6	「部活のイベント」のロールプレイ、その実演、「後悔」の英作文をする。	
8	Lesson 6	「～される」を表す	2	「日本文化」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。	
9	Lesson 7	「～すること」などを表す	8	「ボランティア活動」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。	
10	Lesson 8 Lesson 9	to do / doを使って表す 「～すること」を表す（doing）	8	「部活動」のインタビュー、その実演、「学校行事」の英作文をする。 「環境問題」をテーマに、やり取り、発表、英作文をする。	
11	Lesson 10	doing / done を使って説明する	8	「スポーツ」のインタビュー、その実演、英作文をする。	
12	Lesson 11	doing / done を使って説明する	6	「様々な国の労働時間」のやり取り、発表、「野菜と果物の違い」の英作文をする。	
1	Lesson 12	人や物について説明する(who, which)	6	「日本人のノーベル賞受賞者」のやり取り、発表、英作文をする。	
2	Lesson 13 Lesson 14	時や場所について説明する 比較を表す	8	「歴史的な人・物」のやり取り、発表、英作文をする。 「世界の国々」についてやり取り、発表、英作文をする。	
3	Lesson 15	仮定を表す	6	「未来の自分・職業」についてやり取り、発表、英作文をする。	

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年 学科・コース	1年 全学科	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。		家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。		様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。	
学習内容の概要	人の一生と家族・家庭・福祉、生活の自立と健康・安全、持続可能な社会に向けて				
評価の観点・ 評価方法	・評価の観点 【知識・技能】人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見だして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。 ・評価方法 規定に従い、観点別評価で行う				
使用教材	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)、課題プリント				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	1章 これからの生き方と家族	第1節 生涯の生活設計 第2節 家族・家庭と社会とのかかわり	6	・様々な生き方があることを理解し、生活課題に対応して責任を持って行動することの重要性を理解する。 ・家族形態の多様性を理解し、共に協力して家庭を築くことの意義や重要性について認識する。	
5	2章 次世代をはぐくむ	第1節 子どもの発達 第2節 子どもの生活	7	・子育てには家族、特に父親の協力と、それを支える社会のしくみが必要であることを理解する。 ・子ども身体の発育や運動機能などの発達の概要を理解し、基本的な生活習慣や社会的な規範を身に付けさせることが親や家族の重要な役割であることを理解する。	
6	2章 次世代をはぐくむ 3章 充実した生涯へ	第3節 子育て支援と福祉 高齢期をとらえる 高齢社会を支える	7	・現代の子どもを取り巻く社会環境の課題について理解できるようにする。 ・高齢者の身体的特徴と心理的特徴の概要について理解し、高齢期の就労問題などを基に、高齢期の状況を把握する。 ・誰もが安心して自立的な生活を送ることができる社会について理解する。	
7	4章 ともに生きる	社会保障制度と社会的連帯 人の多様性と社会参加	7	・国や自治体などの制度や行政サービスなどの制度としての支援体制という支え合いの構造について理解する。 ・ノーマライゼーションの理念を土台にして、バリアフリーやユニバーサルデザインなど具体的事例を通して考察する。	
8	5章 食生活をつくる	第1節 人の一生と食事	3	・食事の役割を認識する。 ・現代の食生活の実情を理解し、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・日本の食料自給率の低下や輸入依存の実情を知り、その原因を探るとともに、食料の安定供給について考えることができる。	
9	5章 食生活をつくる	第2節 栄養と食品	8	・健康な生活を送るうえで必要な栄養素とそのおもな働きについて理解する。 ・調理加工食品や、調味料、香辛料などの種類と働きについて理解する。 ・健康増進のための食品について基本的な理解をはかるとともに、サプリメントの効用や扱い方についても考えることができる。	
10	5章 食生活をつくる	第3節 食生活の安全のために 第4節 食生活をデザインする	8	・食品表示の内容を読みとり、食品を選択できるようにする。 ・衛生などの面での注意事項、食品添加物の用途を理解する。 ・自分の食事摂取基準を理解し、「食品群別摂取量のめやす」を活用できるようにする。 ・調理の基本技術を習得する。	
11	6章 衣生活をつくる	第1節 人の一生と被服 第2節 被服材料と管理	8	・被服の持つ機能を理解し、望ましい着装について考えることができる。 ・被服を購入する際に注意すべきことを理解する。 ・取り扱い表示、サイズ表示の見方について理解する。 ・自分の身のまわりの布がどのような繊維でつくられているかに関心を持つようにする。	
12	6章 衣生活をつくる	第3節 これからの衣生活	6	・近年の消費行動の多様化、個性化が多量の死蔵品を生む要因となっていることを理解し、消費のあり方を考えることができる。	
1	7章 住生活をつくる	第1節 人の一生と住まい 第2節 住生活の計画と選択	6	・住まいの機能について理解する。 ・住んでいる人の暮らしを平面図から読みとり、望ましい間取りを考えることができる能力を養う。 ・日照、採光、通風、温度、湿度、遮音などの住環境が、健康な生活に大きな影響を与えることを理解する。	
2	8章 経済生活をつくる	第1節 私たちの暮らしと経済 第2節 消費者問題を考える	6	・経済計画の必要性や家計の構造を理解する。 ・契約の重要性を理解する。 ・販売方法、支払い方法が多様であることを理解し、購入時に適切な判断ができるようにする。 ・消費者として責任ある消費行動を取っていくという態度を養う。	
3	8章 経済生活をつくる	第3節 持続可能な社会をめざして	6	・持続可能な社会の実現のためには、私たち自身が環境に負荷を与えないように工夫していく必要があることを理解する。 ・次世代に負の財産を残さないよう、環境の保全に取り組む責任があることを認識する。	

教科名	情報	科目名	情報Ⅰ	単位数	2
対象学年 学科・コース	普通科 第1学年	履修形態	必修	授業形態	講義・実習
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
情報と情報技術についての知識と技能。情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とそ の結び付きの視点から捉え、複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだ す力を養うとともに、問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活 用する過程を振り返り改善することで、情報と情報技術を適切かつ効果的 に活用する力を養う。		情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナー を守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの 情報モラルを養い、これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで 情報社会に主体的に参画する態度を養う。	
学習内容の概要	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。				
評価の観点・ 評価方法	定期考査・小テスト・学習ノートを通じ、規定に基づき観点別に評価を行う。				
使用教材	図説情報Ⅰ・図説情報Ⅰ学習ノート（実教出版）				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	情報社会と私たち 情報社会と問題解決	問題解決 情報社会における法規と制度 情報セキュリティと個人が行う対策	6	・データと情報の違いについて理解し、事例をあげて説明することができる。 ・情報の特徴（残存性、複製性、伝搬性）について、意味を理解している。 ・情報の信憑性、信頼性の意味を理解している。 ・情報社会における様々な問題点を理解した上で、情報モラルについて考え、自らの行動を振り返り、改善しようとしている。	
5	コミュニケーションと情報デザイン	メディア コミュニケーション 情報デザインと表現の工夫 コンテンツの制作	14	・文字、音声、図表、静止画・動画の各表現メディア、情報メディア、伝達メ ディアの特性を理解している。 ・インターネットを利用したコミュニケーションについて、対面の場合と比較 し、気を付けるべき点について説明することができる。 ・ユニバーサルデザイン、アクセシビリティに興味・関心をもち、情報を発信 する際に、それらのことに注意して取り組んでいる。	
6					
7	情報とコンピュータ	情報の表し方 コンピュータでのデジタル表現 情報機器とコンピュータ	18	・アナログとデジタルのそれぞれ特徴や違いを理解している。 ・コンピュータ内部の数値表現方法である2進数から、10進数や16進 数へ相互に変換する方法を理解している。 ・生活のさまざまな場面で活用されている情報機器の例をあげて説明 することができる。	
8					
9					
10	アルゴリズムとプログラミング	アルゴリズムと基本構造 プログラムの基礎 プログラムの応用	8	・アルゴリズムの図的表現の一つであるフローチャートの記号および描き方を理 解している。 ・問題解決のためにアルゴリズムを活用する際の手順について説明することがで きる。	
11	モデル化とデータの活用	モデル化 シミュレーション データの活用	14	・モデル化の目的や手順、モデルの分類方法について理解し ている。 ・シミュレーションの手順について、具体的な事例で説明す ることができる。 ・ビッグデータやデータマイニングの意味について理解して いる。	
12					
1	ネットワークと情報システム	ネットワークの仕組み 情報システムとサービス 情報セキュリティ	18	・インターネットに接続するための機器やLANの構成につい て理解している。 ・IPアドレス、ドメイン名、URL、DHCPサーバ、HTMLな どの意味や働きについて理解している。 ・情報の安全を守るための情報セキュリティの意味と重要性 を理解している。	
2					
3					

教科名	商業	科目名	情報活用	単位数	2
対象学年 学科・コース	第1学年 普通科・総合選択コース	履修形態	必修	授業形態	講義
学習の到達目標					
知識及び技能		思考力、判断力、表現力		学びに向かう力	
現代に溢れている情報の重要性を知ると共にその正しく有効な活用方法を理解する		誤った情報も溢れていること、かつ誤った使い方をすると犯罪にまで発展する危険性があることを理解する		今後の生活において情報をいかに使いこなしていくか考える姿勢を身に付ける	
学習内容の概要	情報とは何であるか、そして何のために活用するのかについて学ぶ。併せて誤った使い方をした場合どのような事象が起こりうるのかについても学び、それらに対する自分の考えを持つ力を身に付ける。				
評価の観点・ 評価方法	定期考査において知識・技能を問う問題と、思考・判断・表現力を問う問題を区別して作成し、その得点率によって評価する。また普段の授業態度や小テストによって主体的に学習に取り組む姿勢も併せて評価する。				
使用教材	自主教材				
年間授業計画					
月	項目	学習内容	時間	学習の到達目標	
4	情報とは	情報とは 情報伝達の発展について	6	情報本来の目的とそのメリットを理解する	
5	情報化のデメリット 情報の特徴	デメリットにより発生 しうる事象について	6	情報の特徴を悪用することによってデメリットが発生し重大な事象が起こることを理解する	
6	個人情報とプライバシー アプリケーションソフトの インストール	個人情報とプライバシー 個人情報保護法 アカウント入力の際の注意	8	個人情報とプライバシーの大切さを理解する	
7	情報を扱う責任とモラル	チェーンメール 匿名メール SNS	6	情報を扱う上では想像以上の責任が求められることを理解する	
8	ネットワークによるコミュニケーションの種類	ネット上のコミュニケーションの方法について	4	正しく使えば便利なコミュニケーションのツールになることを知る	
9	SNSによる実害の 実例から ネット中傷に関する 法的手段	13の実例について考える	8	なぜSNSによって傷つき、また生命まで失うような事象が起きてしまったのかについて多角的に考え、事件となった場合の手続きについて考え理解する SNSに関する法律を理解する 今後必要とされるであろう法律や制度について考え理解する	
10		刑事手続きと民事手続き	8		
11		プロバイダ責任制限法	8		
12		権利侵害と名誉毀損について	4		
1		悪質投稿の削除について	6		
2	SNSを巡る環境を改善しようとする取り組み	表現の自由との兼ね合い Re Thinkの開発	8	本当の表現の自由とはどうあるべきか考え、改善への取り組みについて知る	
3	SNSの光と影 ネット世界は別世界ではない	SNSのもたらす恩恵について 別世界であると認識することの危険性	6	ネットの世界も現実の世界であることを理解する	